

咽頭がん

【集学的治療の実施状況】

○耳鼻咽喉科

・上咽頭

（化学）放射線療法を行い、頸部リンパ節転移が残存した場合には手術を実施します。

・中咽頭

早期がんに対しては経口的な手術や放射線治療、進行がんに対しては拡大切除を中心に行っています。形成外科と連携し、術後の欠損は再建しています。

手術を望まれない場合には、化学放射線療法を行っています。

・下咽頭

早期がんに対しては（化学）放射線療法、進行がんに対しては手術療法を行っています。進行がんについては、術後に化学放射線療法を追加する場合があります。

手術治療を望まない場合、進行がんでは化学放射線療法を基本としています。

○形成外科

マイクロサージャリーの技術を応用した再建術を行っています。

○放射線科

画像診断と放射線治療を行う。

○栄養サポートチーム（NST）

医師、栄養士、看護師、薬剤師等が連携し、がんや治療の副作用による食欲低下、体重減少等に対するサポートを行っています。

○緩和ケアチーム

医師、認定看護師、認定薬剤師、管理栄養士、心理士、医療ソーシャルワーカーなどから構成されたチームが中心となり、患者の身体的苦痛や精神的苦痛の緩和に努めます。

《準じているガイドライン》

頭頸部癌診療ガイドライン（日本頭頸部癌学会）

がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン（日本緩和医療学会）

苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン（日本緩和医療学会）

終末期癌患者に対する輸液療法のガイドライン（日本緩和医療学会）

がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン（日本緩和医療学会）

がん患者の呼吸症状の緩和に関するガイドライン（日本緩和医療学会）

がん性痛に対するインターベンショナル治療ガイドライン（日本ペインクリニック学会）

神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン（日本ペインクリニック学会）

在宅緩和ケアガイドブック（日本緩和医療学会）